

令和6年度 芸術科 「美術Ⅰ」 シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 1年A～G組 選択者
教科書	美術1（光村図書）	副教材等	なし

1 学習の到達目標

<p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を育成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3)主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
--

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	オリエンテーション 表現	美術Ⅰについて 補色	<ul style="list-style-type: none"> ・美術Ⅰの学習を理解する。年間の学習内容を知る。 ・補色の残像を見て理解する。 	作品 学習状況
	5	絵画 デッサン	「ワインの瓶のデッサン」	<ul style="list-style-type: none"> ・ワインの瓶のデッサン 鉛筆で描く。 ・鉛筆と練り消しゴムの扱い方について知る。 ・円柱を明暗で表現する方法を身に付ける。 ・空間を意識し立体感のある表現を学ぶ。 	作品 学習状況
	6	表現 デザイン	「正方形の色彩構成」 アイディアスケッチ	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩構成 アクリル絵の具で描く。 ・色の対比、混色の仕方について理解する。 ・画面構成（バランス、リズム、ハーモニー）を考えアイディアスケッチをする。 	アイディアスケッチ
	7		配色計画 彩色	<ul style="list-style-type: none"> ・16色以上で構成することを理解し工夫する。 ・直線のマスキングの技法を身に付ける。 ・混色とベタ塗りの表現を身に付ける。 ・修正技法を身に付ける。 	学習状況 作品 学習状況
	8				
	9				
				・主題を追求し、表現方法を工夫しながら制作する。	

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	10	表現 デザイン	完成・鑑賞	<ul style="list-style-type: none">・バランスをよく考え、修正して完成させる。・相互に作品を鑑賞し、新たな発想や工夫を学ぶ。	作品
	11		「観光ポスター」 色面分割	<ul style="list-style-type: none">・ポスター　　アクリル絵の具で描く。・参考作品を鑑賞し、主題（色面分割で遠近感や立体感を表現する）、意図、表現の工夫を理解する。	学習状況
	12		アイデアスケッチ	<ul style="list-style-type: none">・風景と地名を伝達する伝達デザインとしてのポスターをよく考える。	アイデアスケッチ
			配色計画	<ul style="list-style-type: none">・効果的に風景を伝える為の省略や強調を理解し工夫する。	
			彩色	<ul style="list-style-type: none">・曲線のマスキングの技法を身に付ける。	
後期				<ul style="list-style-type: none">・正しいグラデーションについて理解する。	
	1		完成・鑑賞	<ul style="list-style-type: none">・正しい距離が表現できている色作りや配色かを各自がよく確認しながら制作する。・正しい天候や気候を表現できているかを各自がよく確認しながら制作する。・他者に伝えることを意識し色と形等の造形要素の働きを考えて創造的な表現を工夫する。	学習状況
	2				
	3				<ul style="list-style-type: none">・主題を追求し、バランスよく仕上げる。・修正をきちんとする。・他の作品から学び、今後の制作に役立てる。
				<ul style="list-style-type: none">・来年美術を選択しない人にも生涯にわたり美術を愛好していくことを理解する。	

3 評価の観点

知識・技能	造形的な特徴などをもとに対象を捉えることについて理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法創意工夫し表している。
思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を育成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

4 評価の方法

上記の評価の3観点から総合的に評価する。（具体的内容：提出作品、授業の取り組み・態度等）
--

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

<p>苦手意識を持たずに授業で知るやり方を身につけ、一生懸命制作して下さい。懸命にやり続ける中で自然に自分で創意工夫できるようになることが、人間形成につながります。良い時間を過ごしましょう。</p> <p>作品は必ず提出締め切りを守りましょう。期限を過ぎたら減点します。必ず提出すること。</p>
--